

高さ6メートルほどもある巨大な扉に
数えきれないくらいたくさんの人物がはめこまれた「地獄の門」。

いろいろな姿の人物を、少し注意深く見てみましょう。
例えば、こんな人たちはいないでしょうか?探してみましょう。

- ◆抱きあっている若い男女◆
- ◆空中に飛び出しそうな男の人◆

もっとほかにも、いろいろなことをしている人がいます。
どんな人が見つかりましたか?書き出してみましょう。

例: 頭をかかえている男の人

_____ いる子ども

_____ いるお母さん

_____ いる男女

_____ いる _____

ところで、地獄とはいったいどんなところなのでしょうか……。ヨーロッパで伝統的に考えられていた地獄とは、この世で悪い行いをした人間が、死んだ後に罰を受けて連れていかれるところでした。地獄では悪魔や火の池が待ちかまえていて、永遠の苦しみを与えられるものだと、人々は信じていたのです。

では、ロダンがこの作品で表そうとした地獄とはどんなものだったのでしょうか。

この作品に表現されているのは、この世とは別世界の地獄ではなく、むしろさまざまな人がそれぞれの悩みや苦しみをかかえながら一人一人が必死になって生きようとしている生々しい現実の世界のようです……。

ロダンはこの作品でどんなことを表現しようとしたのか、これからじっくりと作品を見ながら、さらに考えていくことにしましょう。

ロダンが「地獄の門」の中の多くの人物をひとつずつ独立させて、それぞれ別の作品に仕上げました。

この美術館の中にも、そのいくつかが展示されています。

展示室のどこにあるか、探してみましょう。



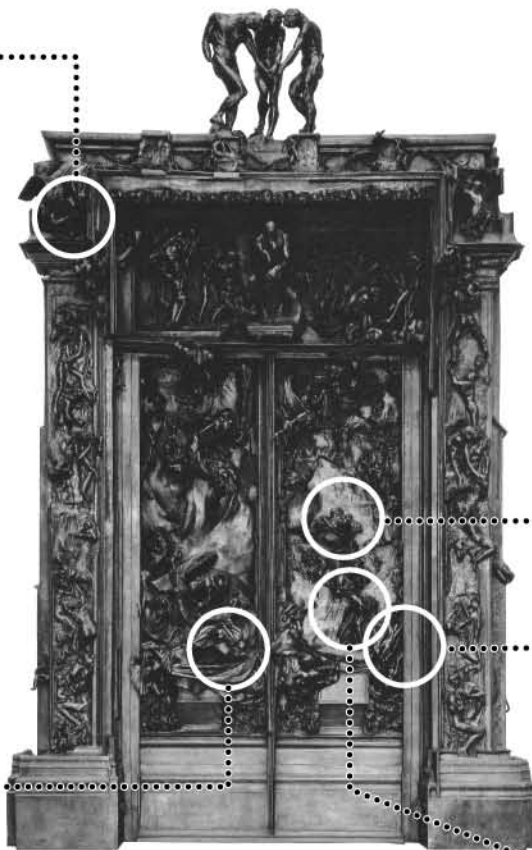
壺をもつカリアティード

《地獄の門》には、ロダンが心ひかれていた詩人ダンテの長編詩『神曲』の「地獄篇」に登場する人物もいくつか表現されています。パオロとフランチェスカは、中でも有名な悲しい恋の主人公です。



パオロとフランチェスカ

〈パオロとフランチェスカの物語〉
この二人は、13世紀に実際に存在した人物がモデルになっています。男の人の名前はパオロ、女の人の名前はフランチェスカ。恋人どうしの二人ですが、実はパオロはフランチェスカの夫の弟だったのです。二人の熱い仲を知ったフランチェスカの夫は、ある日ついに、この二人を自分の手で刺し殺してしまいます…。



《壺をもつカリアティード》、《パオロとフランチェスカ》、《フギット・アモール》、《絶望する若者》は、《地獄の門》の中の、丸印のところにあります。実際に見て確かめてみましょう。



この作品には、全部で何人くらいの人物がいますか？

- ① 50人以上
- ② 100人以上
- ③ 180人以上

(こたえは23ページの下)



フギット・アモール

この《フギット・アモール》の人物も、パオロとフランチェスカの二人がモデルになっているといわれています。

〈二人はなにをしているのでしょうか？〉
この二人、パオロとフランチェスカは、不倫といういけない恋をした罪のために、永遠に空中をさまよい続けているのです。

ところで、「地獄の門」の中には、似たポーズの人物がいくつか見られることに気づいたでしょうか。下の人物を見て下さい。

《フギット・アモール》の人物のポーズに似ていないでしょうか？

この男の人のポーズに注目してみましょう。



女のケンタウロスのトルソと絶望する若者

実はロダンは、一つの像をパターン(型)として、それをもとに少しずつ形を変化させ、ほかの作品とも結びつけていくつかの人物像をつくっていったのです。